

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成26年12月18日 (2014.12.18)

【公開番号】特開2013-101005(P2013-101005A)

【公開日】平成25年5月23日 (2013.5.23)

【年通号数】公開・登録公報2013-026

【出願番号】特願2011-243891(P2011-243891)

【国際特許分類】

G 0 1 N 25/72 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 25/72 G

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月29日 (2014.10.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 7】

例えば、図 1 1 及び図 1 2 に示すように、気体を放出するエアホース 4 3 に加えて、エアホース 4 3 の放出口に対向する吸入口を有し、気体を吸入するエアホース 4 5 を追加して、集積回路 S の表面に沿って気体を循環可能な構成を採用してもよい。この場合、エアホース 4 3 とエアホース 4 5 とは、故障箇所 F を確実にカバーする表面上の領域 A₁ を挟んで対向するように配置される（図 1 2）。このような構成の温度安定化部 4 0 によれば、集積回路 S の表面上の領域 A₁ における気流を一定にして、集積回路 S の表面全体の温度を均一にすることができ、安定した深さ情報の検出が実現される。また、温度安定化部 4 0 からは必ずしも冷却された媒体（冷却用熱媒体）を供給する場合には限定されず、集積回路 S の表面温度を安定化することが可能であれば、加熱された媒体（加熱用熱媒体）を供給してもよい。